

平成30年度 第4回大島区地域協議会 次第

日 時：平成30年7月20日（金）
午後2時から

場 所：大島コミュニティプラザ2階
市民活動室1

開 会

1 挨拶

2 協議

- (1) 地域協議会委員視察研修について
- (2) 地域協議会が必要と認めて審議する事項について

3 その他

- (1) 次期総合公共交通計画の策定について
- (2) 第5回地域協議会の開催日について

資料No.1

【開催日：___月___日、開催時間___時から】

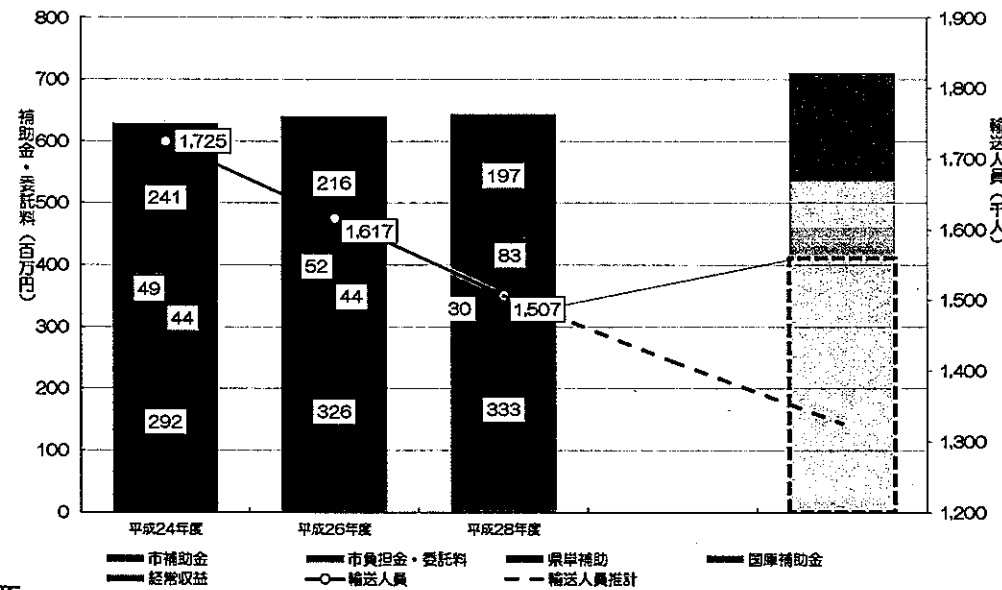
閉 会

次期総合公共交通計画の策定について

1 計画策定の目的

- ・高齢化の進行や運転免許返納者の増加に伴い、これまで以上にきめ細かな公共交通を求める機運が高まっており、住民の需要を的確に捉え、利用しやすく、「乗ってもらえる」公共交通を再構築する必要がある。
- ・一方、少子化や人口減少、自家用車の普及が進む中、公共交通の利用者は減少傾向にあり、安定的な運行を維持するための市の財政負担は年々増大していることから、将来にわたって持続可能な公共交通を確保する必要がある。

■路線バス輸送人員並びに収入及び補助金の推移



2 計画の概要

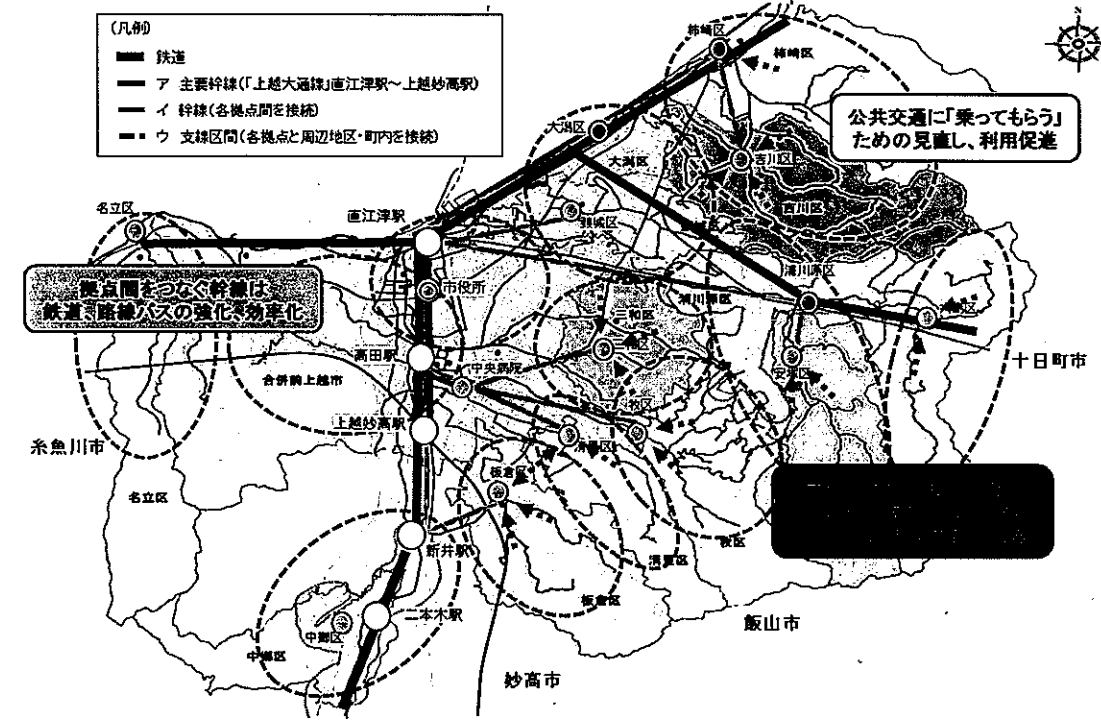
- (1) 計画区域 上越市全域
- (2) 計画期間 中間見直しを含め、平成 32 年度から 8 年から 10 年程度を想定
- (3) 公共交通ネットワークのイメージ

- ・バス路線を、基幹となる「主要幹線」、駅と各区をつなぐ「幹線」、地域内のきめ細やかな移動手段を確保する「支線」に役割分担し、役割に応じた本数、ダイヤ等を設定
- ・従来のバスに限らず、利用頻度や人数などに応じ、より小型の車両による「乗合タクシー」や、地域住民のボランティアによる「互助・自助」による移送など、きめ細かで使いやすく、効率的な運行形態を設定
- ・公共交通の維持が困難となっている現状を共有し、住民の参加による検討

3 策定スケジュール

時期	市全体の検討	各地域における検討
～H30年 8月	・現行計画の評価、全市的な現状の把握 (市民アンケート、乗降調査等)	・各地域の現状の把握 (懇話会、地域の団体との意見交換等)
～H31年 2月	・地域公共交通網の見直し	・地域の再編案の検討、住民との協議等
3月	・計画の骨子完成	
～11月	・計画案の作成	・各地域の再編案の検討、合意形成
～H32年 2月	・計画案の完成、パブリックコメント	
3月	・計画の策定	

■公共交通ネットワークのイメージ



■支線における運行形態のイメージ

1人当たり利用頻度	利用人数/便				運行形態【市の支援】		運行本数	
	多い	少ない	10人以上	4～9人	2～3人	1人		
○		○				定時	路線バス【運行補助】 スクール混乗バス【市営】	多い
	○					デマンド*		
○			○		○	定時	乗合タクシー【運行補助】 自家用有償旅客運送【運行補助】 互助・自助による移送【車両維持費支援】	少ない
	○				○	デマンド*		
		○				○	相乗りタクシー【運賃補助 週3回】 通院・買い物タクシー【運賃補助 週1回】	

■移動手段の例

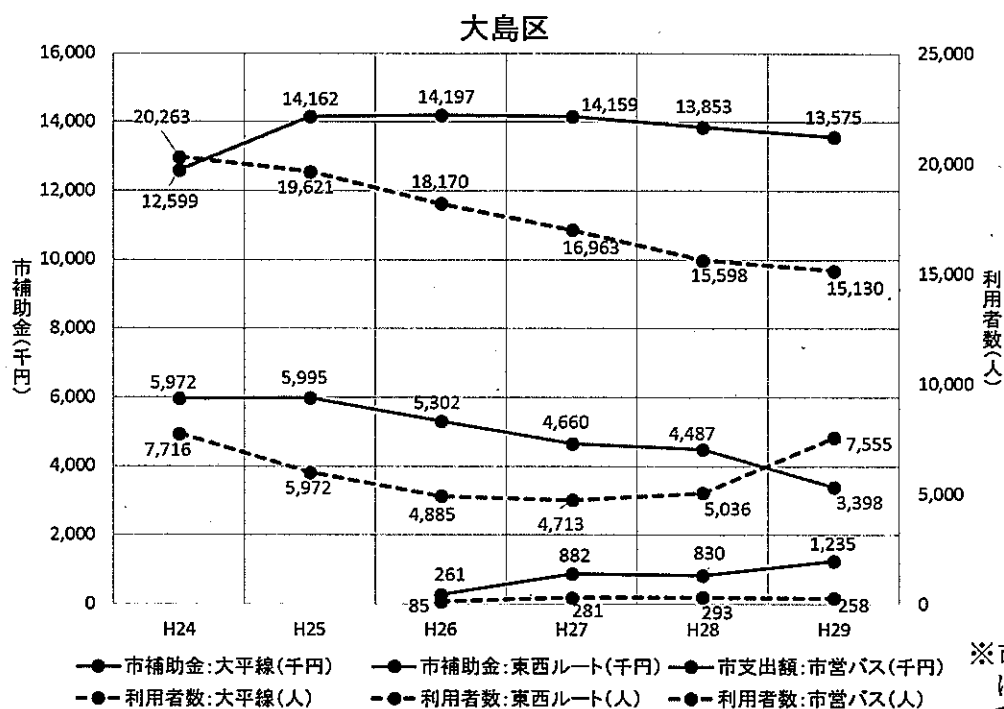
移動手段	内容
スクール混乗バス	・小中学生のスクールバスに、一般利用者が乗車 ※当市5区で運行
乗合タクシー	・タクシーやジャンボタクシーの車両を使用し、バスのように利用者を乗り合いで輸送 ※中郷区で運行
NPO等による輸送	・公共交通がない地域において、NPO法人や町内会等が、白ナンバーの自家用車でバスを運行 ※妙高市、長岡市、魚沼市で事例あり
民間企業等が運営する循環バス	・商店街などがバス会社へ委託などによりバスを運行 ※高松市丸亀町商店街振興組合「まちバス」
互助・自助による輸送	・地域の自治会やNPO法人が、自ら運行ルートやダイヤを決め、地域の助け合いで利用者を輸送 ※新潟市「住民バス」
タクシーの運賃助成	・タクシーの運賃割引を受けることができる利用券を配付 (相乗りは割引率が高い) ※前橋市で実施

大島区の主な路線バスの状況

1 路線の概要

路線	運行経路	便数	
		平日	土曜日
大平線	浦川原小学校前～虫川大杉前～小谷島～大島コミュニティプラザ前	10	0
東西ルート	浦川原小学校前～浦川原区内～大島コミュニティプラザ前	4	0
旭線・菖蒲線 (市営バス)	(旭線)大島診療所前～総合事務所前～藤尾 (菖蒲線)総合事務所前～大島診療所前～菖蒲高原線入口	11	2
		11	2

2 利用者数と市補助金の推移



※市営バスの利用者数には、小中学生の通学利用を含む。

3 収支状況

大平線 (平日1日10便) 東西ルート (平日1日4便)

1便につき、 3.1人 2.2人 が利用しています。

平日1日の運行で、 約1.9万円 約4.3万円 の赤字が発生しています。

赤字の解消には、1便 約16人 約2人 が新たに利用する必要があります。

収支状況 (千円)					利用者1人当たり収支状況 (円)				
H29年度	大平線	東西ルート	市営バス	合計	H29年度	大平線	東西ルート	市営バス	合計
収入	869	135	427	1,430	収入	115	523	28	62
支出	5,451	1,370	13,575	20,396	支出	721	5,312	897	889
欠損	▲4,582	▲1,236	▲13,149	▲18,966	欠損	▲606	▲4,789	▲869	▲827
国庫補助金	1,182	0	0	1,182	国庫補助金	156	0	0	52
市補助金	3,398	1,235	13,575	18,208	市補助金	450	4,787	897	794
収支率	15.9%	9.8%	3.1%	7.0%					

※市営バスの「市補助金」は、スクール混乗便の運行に係る市の支出額。「支出」欄と同額を記載